

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

| | |
|----------|---|
| モデル事業名 | “元気再生ふるさと応援団”自立・持続性確立プロジェクト |
| 対象地域 | 南相馬市 |
| 活動概要 | <p>本市では、人口減少、少子高齢化にともない、地域活力の低下、地域の助け合いや伝統文化の継承などが困難になってくることなどが懸念されている。また、本地域では、古来より“無尽(ムジン)”や“結い”と呼ばれる地域互助・共助の文化が残されてきたが、現在では、このような共助・互助の仕組みも失われつつある。</p> <p>市では、地域力の向上や定住人口の拡大に向け各種計画を策定・推進しているところであるが、地域資源の活用・地域住民の取組を効果的にしていくためには、地域内の人・物・金・情報を有機的に連携させていくプラットフォームとその推進組織が必要であると言われており、本市においては、そのような機能がまだ育っていない。</p> <p>このような中間支援的な組織の価値を市民が認識し、多くの市民が参画する中で、このような活動や組織を支える仕組み・関係を確立していくことが求められている。</p> <p>本事業は、このような中間支援組織の活動の有効性を実証するとともに、これを多面的に支える人的ネットワーク及び財源を確保する仕組みづくりに取り組む。これにより、市民の小さな力を集めることで地域振興の大きな力になることを示し、市民が自分たちで地域を支えているという自負と誇りを持って暮らし続けられる“ふるさと・南相馬”を実現する。</p> |
| 今年度の主な取組 | <p>①“ふるさと応援団”の設立 “NPO法人はらまちクラブ”の既存の活動を母体に、ボランティア育成及びボランティアバンクを構築し、“ふるさと応援団”を設立する。</p> <p>②ボランティアに関する市民意識調査 元気プロジェクトに参加したボランティアに、元気応援団及び優路について概要を説明し、意見の聞き取りを行う。</p> <p>③ボランティア地域通貨制度の導入と“ふるさとポイントカードシステム”の検討 企業(CSR)だけではなく、個人の社会的責任(PSR)を形にするボランティア地域通貨制度を導入する(例えば、「ボランティアを受けたい人は600円でコインを購入し、1時間の支援を受けたらそれを渡す。コインは、地元商店で500円分として使うことができ、差益は地域貢献事業の原資とする」といった仕組み)。その発展形として、多くの店で使える寄付先指定機能付きポイントカードシステムの将来的な導入にむけた検討を進める。</p> <p>④元気プロジェクトにおけるボランティア通貨制度の試行 「まちなか元気俳句ing」(10月13日開催):市内に賑わいを持たせながらまちなかウォーキングと俳句を組ませた事業 「サンライフ感謝祭」(11月23日開催):伝統的風習“投げ餅”の復活など、食や農に親しむ事業や子育て支援事業・生涯学習の発表事業などを実施。 「三世代元気」(12月23日開催):幼児から高齢者まで参加できる大運動会。 など、地域内のハード・ソフトの資源をネットワーク力により活性化させる“元気プロジェクト”を複数実施し、ボランティアの活躍の場や、企業との連携の場の創出を試行する。プロジェクトにおいてはボランティアの活用を図る。また、交流人口を増やすためにさらなる地域資源の活用プロジェクトの企画を進める。</p> |

| | |
|---------------|---|
| 活動結果 | <p>①元気応援団の検討と設立をとおしたネットワーク形成 本事業において、検討会を設け、コミュニティ関連のNPO、商工業関係者、福祉関係者などが協議し、元気応援団の設立に参加したことで、今後の活動での連携・協働の関係が構築できた。</p> <p>②スーパー地域通貨優路システムによるコミュニティ形成 地域通貨優路システムについて、市内大手スーパーの賛同が得られたことにより、商店が地域活動に対し支援する姿勢が具体的に市民に示された。地域の商店と市民との関係づくりがよりいっそう進むことが期待できる。また、ボランティアの方々も、本システムの主旨と今後のボランティア謝礼への地域通貨の使用に賛同して下さったことから、地域互助・共助が再認識され広まっていくことが期待できる結果が得られた。</p> <p>③元気プロジェクトによる効果 実施した元気プロジェクトでは多くの市民の交流が実現した。また、元気プロジェクトや優路のPR等が、全国ネットのTVや、地方紙などでもとりあげられたことから、ふるさとへの誇りの醸成につながっている。</p> |
| 当初予想していなかった効果 | <p>地域通貨優路システムについて、大手スーパーからの協力申し出は、経営者自ら出向いて下さったものであったこと。 地元商店会のうちのいくつかの店舗などに打診を計画していた段階で、市内に4店舗を持つ県内の大手スーパーの社長自らが、協力依頼を申し出て下さったことは、まったくの想定外であった。食料品を含む日用品の購入できる店舗での試用にめどがたったことは、今後にむけて大きな成果であった。</p> |
| 実施状況(写真) | <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【写真:左】元気プロジェクトの実施状況(「まちなか元気俳句ing」) 【写真:右】 同 上 (「三世代元気運動会」)</p> |
| 応募団体名 | NPO法人 はらまちクラブ |
| リンク | |
| 部局/担当者名 | 同法人 理事長 江本節子 |
| 連絡先 | TEL:0244-22-2564 E-mailアドレス:emoto88@ybb.ne.jp |
| 推薦市町村名 | 南相馬市 |